



## 吉野彰大学院理工学研究科教授 2019年ノーベル化学賞受賞への 学長コメント

このたび、本学の吉野彰大学院理工学研究科教授が  
2019年ノーベル化学賞を受賞することを祝し、  
小原章裕学長より以下のコメントを発表します。



吉野彰教授

吉野彰先生、2019年ノーベル化学賞のご受賞、誠にありがとうございます。吉野先生のこれまでの卓越した研究業績が、栄えある賞に結び付いたことを心からおよこび申し上げます。2014年の赤崎勇終身教授・特別栄誉教授、天野浩特別栄誉教授（元理工学部教授）のノーベル物理学賞受賞に続く、名城大学にとって大変な名誉です。学生、教職員をはじめ20万人の卒業生にとっても大きな誇りです。

吉野先生は「好奇心と洞察力」を座右の銘に、リチウムイオン電池の開発に取り組み、二次電池の小型化、軽量化という難題に挑み、1985年に現在のリチウムイオン電池の原型を開発されました。8ミリビデオカメラの小型軽量化という当時の課題を解決し、その後、携帯電話やスマートフォン、パソコンなどの電源に使われ、自動車や航空機にまで利用範囲が広がり、社会に変革をもたらしました。リチウムイオン電池は今後、電源としてだけでなく、蓄電システムとして省資源、省エネルギーのインフラになると期待されます。

吉野先生のご健勝と今後ますますのご活躍を祈念いたしますとともに、名城大学の教職員一同、心よりお祝い申し上げます。

2019（令和元）年10月9日  
名城大学学長 小原章裕